

右之通

年月日

右
氏
名印

東京府鍼灸師會
規程

東京府布達 第十八号
明治十八年九月十一日

十九年二月
第七號追加
省スヘシ刑罰
日ニ載ス

鍼灸師營業取締規則左ノ通相定メ本年十一月一日ヨリ施行ス但從來營業ノ者ハ同日限り出願免許鑑札ヲ受ク可シ
右布達候事

鍼灸師營業取締規則

- 第一條 針治又ハ灸治ノ業ヲ營マント欲スルモノハ左ノ書式ニ據リ尙ホ其師ノ證書ヲ添ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ
- 第二條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ該主治醫ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ施術スルヲ許サス
- 第三條 妄リニ人ヲ勸メ又ハ危險ノ病症ニ施術スヘカラス
- 第四條 藥方ヲ示シ又ハ藥劑ヲ與フルコトヲ許サス
- 第五條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第六條 轉居スルトキハ其旨届出スヘシ但管外ヘ轉居スルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第七條 氏名ヲ改メ若クハ鑑札ヲ遺失又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 第八條 廢業若クハ死亡シタルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第九條 此規則ニ掲クル願届ハ區長戸長ノ奥印ヲ受ケ郡ハ郡長ヲ經由スヘシ
- 第十條 此規則ニ違反シタルモノハ其營業停止若クハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十一條 前條ニ據リ營業ヲ禁止シタル者ハ鑑札ヲ取上ケ其停止シタル者ハ幾年月日間停業シタル旨鑑札裏面ニ記入下付スルモノトス

書式

鍼灸師營業鑑札御下付願

私儀鍼灸師營業仕度候ニ付(營業罷在候處)明治十八年甲第六十一號御布達ニ據リ免許鑑札御下附相成度別紙履歷書及師家ノ證書相添從來營業ノ者ハ證書ヲ添ルニ及ハス此段奉願候也

何郡區何町村何番地

族籍
氏
名印

年月日

東京府知事宛

前書ノ通出願ニ付奥印仕候也

區戸長
氏
名印

履歷書

何郡區何町村何番地

族籍
氏
名

何年何月生

一何年何月ヨリ何年何月迄何ノ誰ニ隨ヒ何術修業

一何年何月ヨリ何年何月迄何府縣何郡區何町村何番地ニ於テ營業

(從來營業ノ者ハ現ニ營業ノ地名ヲ記入スヘシ)

右之通

右
氏
名印

北海道廳告示 十九年五月七日
第三十六號
等ノ營業者他管へ轉籍
ノ旨ハ縣府ヲ受ケシム

北海道廳告示 十九年五月七日
第三十六號
從來入齒々抜口中療治接骨營業者ニシテ府縣へ轉籍或ハ寄留ノ上尙其業ヲ營マントスルモノハ自今出
願添翰ヲ受クヘシ

藥舖營業者取調雛形ヲ
定メ具申セシム

文部省達 六年六月二十二日
第九十號
六年八月文部省布達第百
八號ヲ參照スヘシ

文部省達 六年六月二十二日
第九十號
當省ニ於テ醫務取調候ニ付其縣管下藥店商業之者ハ別紙雛形ニ照準シ明細書爲指出且其地方每大小區
內藥店之軒數取調至急可指出此段相達候也

雛形

何府管下

何郡何所或ハ何町住

苗字

名

當西六月
何年何箇月

一年號千支何月開店當代ヨリ幾代前某ヨリ連續又ハ當人開店 專業或ハ他業兼商 年號千支何月或ハ何年何月何府縣

何郡何町何區ヨリ轉移等其次第詳細

一諸藥品買入高明治三年庚午以來每年分

明治三年庚午

和藥何品何程

但何府何郡何町何區何某ヨリ買入

同年

漢藥何品何程

但何府何縣右同斷

同年

洋藥何品何程

但何府何縣右同斷

同四年辛未同五年壬申右ニ準ス

一右藥品之內賣捌高

明治三年庚午

和藥何品何程

漢藥何品何程

洋藥何品何程

同四年辛未同五年壬申右ニ準ス

一製劑藥名或ハ有無

但自製或ハ何某ヨリ受賣ノ譯

明治三年庚午

製高何程

內

賣捌高何程

同四年辛未同五年壬申右ニ準ス

右之通相達無御坐候以上

明治六年何月

苗字 名印

東京府布達 六年七月五日

府知事參事宛
縣令參事宛

右之通被相達候間各大區限リ戸長ニ於テ取纏メ來ル七月十五日迄ニ府廳へ可差出候此旨市在區々無洩

藥師營業者取調雛形ノ
内第一條取調出シム

可觸示者也

文部省布達 第六年八月五日

本年第九十號ヲ以テ相達置候藥舖取調雛形ノ内第一條至急入用ニ付往復ヲ除クノ外日數三十日限り取調差出可申此段布達候也

但第二條以下ハ取調出來次第可差出事

東京府達 第六年八月五日

右之通被相達候間來ル三十一日限り取調當府へ可差出此旨市在各區無洩可觸示者也

藥師營業者取調雛形第
二條以下改正

文部省布達 第六年九月八日

本年當省第九十號ヲ以及布達置候藥店商業之者取調雛形第二條以下別紙之通相改候條此旨布達候事

雛形

一諸藥品買入高概數

和藥種何品何程 一箇年合算高ヲ舉

同 何品何程

舶來藥種何品何程 舶來品之内幾瓶幾箱幾磅幾号等ヲ以テ

同 何品何程

合計何萬何千何百何十何斤

幾箱幾樽幾磅幾号

一諸藥品賣捌高概數

和藥種何品何程

同 何品何程

舶來藥種何品何程

同 何品何程

合計前同斷

右明治三年庚午ヨリ同五年壬申迄三箇年分

一製劑藥名或ハ有無

但自製或ハ何國何所何某ヨリ受賣之譯

一製劑量數一箇年何程賣捌量數一箇年何程

右明治三年庚午ヨリ同五年壬申迄三箇年分

東京府達 第六年九月十五日

右之通被相達候間是迄取調差出シ候分モ第二條以下右之文例ニ從ヒ更ニ書キ改メ早ヤ可差出此旨市在各區々無洩可觸知者也

文部省布達 第七年二月四日

明治六年第九十號第百十六號改正雛形ヲ以布達候藥舖并第九十六號第百二十八號雛形ヲ以布達候鑛泉右兩件取調書于今不差出向有之差支候來ル五月十日限可差出此旨相達候事

東京府布達 第八年五月二十四日

藥種渡世之者產婆整骨業齒醫師賣藥者姓名并賣藥九散丹圓膏藥煎之法數左ノ雛形之通り各大區限り取纏メ來ル六月三十日迄差出可申此旨相達候事

何大區何小區

何町何丁目何番地

華士族平民

藥師營業者取調雛形收フ條從ス
第九十六號ハ六年七月文部省達置候藥舖并第九十六號第百二十八號雛形ナリ
第百二十八號ハ六年十月文部省達置候藥舖并第九十六號第百二十八號雛形ナリ
但ニ藥劑ノ口ニ從ス
東京府達置世ノ者及賣藥者姓名并賣藥ノ法取調方
九年九月東京府布達第百九十七號ヲ參看スヘシ

何業

或ハ何縣寄留歟

何之誰

何々

賣藥

同
同
斷

何大區何小區

何町何丁目何番地

華士族平民歟

又ハ何縣寄留歟

何渡世

何之誰

一藥名何々

一同 何々

メ法數幾種

藥舖開業試驗科目

內務省ヨリ東京大阪兩府へ達 八年十二月二十八日

醫制第三章ノ趣旨ニヨリ藥舖開業之者試驗之儀當分別紙之通相定來ル明治九年一月一日ヨリ施行候條
此旨布達候事

(別紙)

自今新ニ藥舖開業セント欲スルモノ及ヒ從來藥舖ノ子弟父兄ノ業ヲ相續シテ藥舖主タランコトヲ欲ス
ルモノハ左ノ試驗ヲ經テ免狀ヲ受ケヘキ事

但從來開業ノ藥舖主ハ試驗ヲ要セス新ニ免狀ヲ受ケ開業スルモノト混雜セサル様管廳ニ於テ處分ス

ヘシ尤從來開業ノ藥舖主タリトモ志願ノモノハ試驗ヲ經テ免狀ヲ受ケヘシ

試驗科目

第一 算術

第二 物理學大意

第三 化學大意

第四 藥物學大意

第五 處方學大意

試驗ハ當分該府下ニ於テシ其成績ヲ內務省ニ具狀シ免狀ヲ受ケ本人ニ交附スヘシ

衛生局ヨリ內務省ヘ伺 八年十二月八日

藥舖開業之節試驗ノ儀既ニ京都府ニ於テハ本年三月中ヨリ同府同濟ニテ施行致候所追々試驗ヲ經免狀
御授與相成候向有之就テハ東京大阪之儀モ最早司藥場事務一通リ相整藥物學傳習ノ生徒モ月々増加候
ニ付差支モ有之間敷ト存候間左案二府へ御布達相成度此段相伺候也

東京府達 八年十二月二十八日

別紙ノ通內務省ヨリ被相達候ニ付新ニ藥舖開業ノ者并從來藥舖ノ子弟父兄ノ業ヲ相續セント欲スル者

ハ試驗可願出候條各區無洩可相達事

但從來開業ノ藥舖主タリトモ志願ノ者ハ試驗可願出事

(備考)

內務省衛生局第一次年報抄錄
明治八年十二月創メテ三府ニ達シ藥舖開業免許試驗ヲ施行セシム共方タル醫師ト同ク專ラ將來藥舖ト
爲ル可キ者ヲ勸奨シテ本業ノ學術ヲ修メシムルヲ主義トシ從來開業ノ者ハ之ヲ例外ニ置ク中略抑モ藥
舖開業ノ試驗ハ漸次之ヲ各縣ニ及ホシ又傍ラ藥品檢査ノ事ニ由リテ各自其鑒識ニ注意セシメ以テ就學
ノ途ニ誘導セントス然レトモ藥舖ノ改良ニ赴キ難キハ概テ醫師ト一般ニシテ亦其成果ヲ瞻近ニ望ム可
ラサル者アリ

藥舖試驗ハ司藥場ヘ打
合セ取付ハシム

藥舖開業免狀書式
十年六月三十日衛生局所
定ヲ以テ免狀書換ノ節裏
書書式ヲ定ム前ニ載ス

内務省ヨリ東京大阪兩府ヘ達 九年一月二十五日

昨年十二月相達候藥舖試驗ノ儀ハ司藥場ヘ打合可取計此旨相達候事

内務省ヨリ京都府ヘ達 九年一月二十五日

藥舖試驗ノ儀自今司藥場ヘ打合可取計此旨相達候事

但別紙ノ通東京大阪二府ヘ相達候條爲心得此段相達候事 別紙ハ八年十二月二十五日付
試驗法達書ヲ云フ依テ略ス

内務省衛生局所定 九年一月二十五日

藥舖開業免狀書式

第何號

割
印

族
籍

姓
名

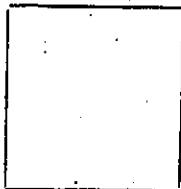
年
齡

右藥舖開業免許候事

明治何年何月何日

内務卿 姓

名



醫師開業出願書式

東京府布達 九年三月十三日

醫師并藥舖開業出願之者ハ別紙雛形書式ニ照準戸長加印ヲ受ケ可差出此旨布達候事

別紙雛形

醫師開業願式 料紙美濃紙 履歷共三通宛

今般第何大區何小區何村何番地ニ於テ何科醫術開業仕度就テハ兼テ御達之趣モ有之候ニ付別紙履歷相添差出候間御試驗之上免狀御下渡被下度此段奉願候也

何府華族平民

第何大區何小區何村何番地寄留

年號月日

苗字 名 印 年齡何年何箇月

右區戸長

苗字 名 印

東京府知事何某殿

別紙履歷

履歷書ハ修學ノ年限國所校院名教師姓名并醫術ハ理解剖生理病理藥性內外科藥舖ハ算術理化藥物調劑學等詳細記載スヘシ

內務省衛生局ヨリ東京大阪京都司藥場へ通達 九年三月二十七日

藥舖試驗ノ節府廳ノ委員ト立會候上該府ヨリ其成績ヲ具狀シ免狀授與致候儀ハ先般御達ノ通りニ有之候得共自今其場ニ於テモ試驗ノ都度藥舖ノ姓名應答ノ次第別ニ意見開申可致此段及御達候也

藥舖試驗ノ都度藥舖ノ姓名應答ノ次第別ニ意見開申セシム
十三年十二月二十一日衛生局達ヲ發スヘシ

東京府藥舖開業出願書式

東京府布達 九年九月十六日

府下ニ於テ從來開業之醫師藥舖 醫師ハ明治八年二月以前藥舖ハ同年免狀ヲ付與シ當分之内舊ニ依リ開業可差許候條此旨布達候事

但成規之通試驗ヲ受ケ內務卿ノ免狀ヲ所持候モノハ此限ニアラス

藥舖及賣藥店等營業免狀ナキ者診察施療スルヲ禁ス

東京警視本署布達 十年十月十五日

藥舖若クハ賣藥店等營業免狀無之者診察施療致候儀不相成ハ勿論ニ候處竊ニ右所業ヲ爲ス者有之哉ニ相聞不都合之至ニ付萬一心得違ノモノ有之節ハ嚴重可及處分候條此旨布達候事

東京府藥舖開業出願書式

東京府布達 十年十二月十三日

府下ニ於テ明治八年十二月以前ヨリ藥舖開業ノ者エ假免狀付與可致旨去九年九月甲第九十七號ヲ以テ及布達置候處自然履歷書漏ノ者有之候ハ、來十一年二月二十八日限り本人履歷書可差出右期限ヲ經過候節ハ假令從前開業ノ者タリトモ成規ノ通試驗ヲ受ケ候儀ト可相心得此旨布達候事

警視本署傷病者ノ藥品ヲ求ムルトキ藥舖心得方

東京警視本署達 十一年四月十二日

醫者又ハ藥店等ニ就キ傷病ノ治療ヲ請ヒ藥品ヲ求ムル者其其負傷ノ不審ナルトキハ先其請求ニ任セ置キ本人ノ蹤跡ヲ不失樣注意シ速ニ最寄警視分署又ハ巡行ノ巡查ヘ可密告旨其筋ノ者ヘ可相達事

札幌本署傷病者ノ藥品ヲ求ムルトキ藥舖心得方

開拓使札幌本廳達 十一年五月十四日

醫師又ハ藥店等ニ就キ傷病ノ治療ヲ乞ヒ藥品ヲ求ムル者其其負傷ノ不審ナルトキハ先其請求ニ任セ置可成本人ノ蹤跡ヲ不失樣注意シ速ニ警察署及分署又ハ巡行ノ巡查エ可密告旨其筋ノ者エ可相達此旨相達候事

但警察署分署設置無之場所ハ區務所又ハ扱所エ密告スル儀ト心得ヘシ

東京府布達 十一年六月二十九日

醫師開業之者藥師之業ヲ兼子又ハ藥師ニシテ醫業ヲ兼候儀自今不相成候條此旨布達候事
但醫師藥室ニ於テ施治之患者ヘ可付與調劑ハ此限ニアラス

東京府藥師ニシテ醫業ヲ兼タルヲ禁止ス
十七年四月十八日內務省達ヲ以テ醫師藥師ノ兼業ヲ許ス醫事ノ日ニ載ス
札幌本廳藥師無免許ノ者醫師ノ處方書無之限リニ合劑スルヲ禁ス

開拓使札幌本廳達 十一年七月十八日

藥師ヲ以テ業トスル者無免許ハ勿論官許ヲ得タル者ト雖トモ醫員ノ處方書無之限ニ合劑不相成又鍼灸ヲ以テ業トスル者強ヒテ人ニ鍼灸ヲ勸メ診察投劑ヲ致スハ嚴禁ニ候處竊カニ右所業ヲ爲ス者有之哉ニ相聞ヘ不都合ノミナラス一度ヒ配劑ヲ誤ルトキハ衛生上言フヘカラサル大害ヲ生スルモノニ付若シ心得違ノ者有之節ハ其筋ニ於テ嚴重可及處分咎ニ候條右普ク諭達シ取締方深ク注意可致此旨相達候事

東京府達 十二年六月二十三日

醫師藥師產婆開業假免狀并種痘免狀ノ儀自今管内轉居ノ節ハ書換ニ及ハス最モ其時時届出ノ儀ハ從前ノ通心得ヘキ旨右所持ノ者ヘ告示スヘシ此旨相達候事

藥師開業假免狀所持者管内轉居ノ節ハ不及書換其届出ハ從前ニ依ラシム

內務省衛生局ヨリ東京司藥場ヘ達 十三年十二月二十一日

東京府廳ニ於テ藥師開業試驗ノ都度其場ニ於テモ藥師ノ姓名應答ノ次第別ニ意見開申可致相達置候處自今以後不及其儀尤モ特別ノ意見有之節ニ限り開申可致此旨更ニ相達候事

藥師試驗期日

東京府告示 十五年十一月八日

藥師并ニ產婆ノ試驗ハ毎年三月九月ノ兩度ト相定候條此旨告示候事

東京府藥師商營業規則

但出願期日ハ其都度當府衛生課ヨリ報告ニ及フヘシ

東京府布達 十九年二月二十三日

藥種商營業規則左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但從前東京府廳ヨリ付與シタル藥師假免狀ハ本年三月十五日限り返納シ此規則ニ依リ藥種商鑑札ヲ受クヘシ

右布達ス

藥種商營業規則

第一條 藥種商ハ單ニ藥品ヲ販賣スル者ニシテ調劑スルヲ許サス

第二條 藥種商ハ內務省試驗所製藥者又ハ內務省免許藥師ノ封鍼アルモノニアラサレハ毒藥劇藥ヲ販賣スルヲ許サス

第三條 藥種商ノ業ヲ營マントスル者ハ東京府廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
但幼年者又ハ婦女ニハ免許セス

第四條 藥種商ノ業ヲ相續スル幼年者又ハ婦女ナルトキハ後見人ヲ定メ願出ヘシ

第五條 藥種商ノ鑑札ヲ受ケタルモノハ其店頭ニ東京府免許藥種商ノ八字及住所氏名ヲ記シタル標札ヲ掲クヘシ

第六條 氏名ヲ改メ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタル者ハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第七條 管外ヘ轉居又ハ廢業若クハ死亡シタル者ハ鑑札ヲ返納シ管内轉居ノ者ハ東京府廳ヘ届出ヘシ

第八條 此規則ニ關スル願届ハ區戸長ノ奥印ヲ受ケ郡ハ郡長ヲ經由スヘシ
第九條 第一條第二條ニ違反シ又ハ免許ヲ受ケス若クハ標札ヲ掲ケスシテ營業スルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラル、ノ外其情狀ニ依リ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

醫事 獸醫治

獸醫

內務省達 乙卯年二月二十一日

獸醫取締及獸畜衛生事務ノ儀以來勸農局ニ於テ取扱候條爲心得此旨相達候事

內務省ヨリ開拓使へ通知 十四年二月二十二日

獸醫取締及獸畜衛生ニ關スル事務ノ儀ハ以來勸農局ニ於テ取扱候條爲御心得此旨及御通知候也

獸醫取締ノ勸農局所管
十四年四月七日內務省達
ヲ以テ勸農局ヲ廢シ事務
ヲ農商務省ニ屬ス官制門
官制ノ日ニ載ス
十四年四月達第二十五號
ヲ以テ農商務省中ニ農務
局ヲ置ク

(參考)

勸農局ヨリ內務省へ同十三年八月十日
從來地方ノ獸醫ト目シ畜類ノ生命ヲ依頼スルモノハ大抵舊慣ヲ墨守シタル伯樂ニシテ獸醫ノ何物タル
ヲ知ラス流行病ノ勿論畜類ノ爲メ牧畜上ノ進路ヲ遮斷セラルハノ憂不渺然ル處獸醫取締ノ儀ニ付テハ
未タ之ヲ管掌スルノ主局モ判然タラス僅ニ府縣衛生事務係項第一ニ醫師獸醫製藥家藥舖產婆ノ開業
ヲ督察シ其現員ヲ調査スル事ト有之候得共右ハ其人員ヲ調査スル事ニテ獸醫ヲ統轄スヘキ明文モ無之
元來獸醫ハ歐洲諸國ニ於テハ之ヲ醫院ニ屬セシメ全ク一專門ノ事業ニシテ獸醫ヲ統轄スヘキ間ノ衛生事務ト混
同セス是ヲ以テ當局ニ於テハ農學校中特ニ獸醫養生ノ科業ヲ設テ之ヲ專ラシテ養成セラル候ニ付テハ
旁以衛生局ニテ該事務ヲ統括スヘキ次第ハ萬萬有之間敷哉ト相考候間當局陸產課中ニ獸醫ノ一掛ヲ置
キ全國ノ獸醫ヲ統轄シ併セテ獸畜衛生事務ヲ擔當シ適當ノ獸醫書ヲ編集シ尋常治療ノ目途ヲ定メ科目
ヲ設ケ其人ノ學力術藝ヲ試ミ合格ノ者ヘ更ニ開業免狀ヲ付與シ不合法ノ者ハ之ヲ停止シ以テ倍々獸
醫ヲ研究セシメ併テ衛生ノ方法等漸次確定候ハ、疫病ノ豫防ハ勿論平常ノ病症ニシテ非命ニ斃ルハ、
畜類モ妙ナキニ至ラン歟ト相考候ニ付先以獸醫取締及ヒ獸畜衛生事務取扱ノ爲メ掛員設立ノ儀御允許
相成度此旨相伺候條至急仰御決議候也

但本議御決議ノ上ハ其方法規則等ハ追追取調可相伺積ニ有之候事
內務省衛生局ヨリ勸農局へ通牒 十三年八月十日
右ハ御廻議ノ如ク御局ニ於テ御取扱相成候方可然存候ニ付別紙鈴印致候尤獸醫養成ノ方法ハ一般醫師
トノ權衡モ有之又疫病ノ豫防法等ニ至リテハ其肉類乳汁死屍又ハ其病患ニ因リ人體ノ衛生上ニ關スル
妙カラサルヲ以テ歐米各國ニ於テモ衛生會ノ議目ニ家畜病ノ事ヲ掲載有之就テハ爾後獸醫并家畜病ニ
關スル事件ハ總テ當局へ御合議相成度又將來其事項ニ依リテハ中央衛生會ノ議決ヲ要スル事警視局へ
御協議ヲ要スル儀モ可有之ニ付此御廻議モ豫メ御合議相成候方可然存候此旨併テ申添候也

中央衛生會事務章程ハ官
制門官制ノ日ニ載ス

中央衛生會ヨリ內務省へ具申 十四年二月二十五日

獸醫取締及獸畜衛生事務取扱之儀ニ付テハ客歲八月勸農局於テ致統轄候儀同濟之上當會ヘモ通知有之
候右ハ行政上衛生事務ニ關スル諸件ノ內御都合ニ因リ前件ノ條項ヲ同局ニ屬セラレ候儀ト存候得共全
國衛生事務ニ關スル諸件ヲ審議スル等議事上ニ涉リ候儀ニ就テハ明治十二年第五十四號公布中央衛生
會事務章程ニ準シ當會ニ於テ關涉可致儀ニ付已ニ先般御認可相成候巡回內規ヘモ獸醫并家畜傳染病ノ
目ヲモ掲ケ置候儀ニテ畜病中ニハ唯ニ獸類ノミニ止マラスシテ人類ニ染及スルノ症モ有之且又海外於
テ獸疫流行ノ節檢疫ノ方法ニ至リテハ内外醫員ノ討議ヲ要セサル可ラサル場合モ不寡候條總テ規則案
等重要ノ事件ハ本會ノ儀ニ付セラルヘキ儀ト存候條爲念此段及上申候也 十四年三月十日內務卿決判
內閣記録局ヨリ農商務省農務局へ照會 二十三年十一月六日
一十五年頃貴省御所轄農學校中ニ正則變則ノ獸醫專門科ヲ置キ該科卒業ノ獸醫學士獸醫生ヲシテ免狀
ヲ所持セシメ直チニ獸畜治療ヲ許シシコト有之候哉
一府縣ニ於ケル獸醫學校ヲ卒業セシメ及ヒ自修獸醫生ヲシテ試驗ノ上前同様無免狀隨意治療セシコ
ト有之候哉
一十八年八月第二十八號布告ヲ以テ獸醫免許規則制定以前ニ獸醫ニ關スル成規等有之候哉
右三件ニ關スル貴局御定メノ規則又ハ府縣等ヨリ伺出候書類有之候ハハ謄寫御回付有之度尤御都合ニ
ヨリテハ當局寫字生差出可申候否御回報有之度候也
農商務省農務局回答 二十三年十一月十一日
記第四二一號ヲ以テ獸醫ニ關スル規則等之義ニ付御照會ノ趣了承十八年八月第二十一號布告獸醫免許
規則發布前ニ在テハ各地方概シ適宜取締法之設有之候得共當省ヨリ一定之規則等發布相成候モノ無之
候此段御回答ヲヨヒ候也

達節錄 十四年四月七日 官制門官制ノ日ニ載ス

今般農商務省ヲ設置シ職制并ニ事務章程別冊ノ通相定候條此旨相達候事

農商務省職制

第一 獸醫ニ關スル法令ノ施行ヲ保持監督ス

農商務省事務章程

第一條 農商務卿管掌ノ事務ハ左ノ諸局并ニ會議ニ分任シテ整理審議スヘキモノトス
二 農務局

第三條 農務局ハ勸農ニ關スル事務ヲ調理ス

栃木縣醫務開業規則ノ施行ヲ略ス

十八年八月布告第二十八號ヲ以テ獸醫免狀規則ヲ定ム

栃木縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年五月十四日
本縣管下獸醫取締之爲メ獸醫開業規則別紙之通施行致度候條御開置相成度此段相伺候也

農商務省指令 十七年五月二十六日

伺之趣聞届候事

獸醫開業規則

- 第一條 獸醫ヲ開業セント欲スルモノハ甲號書式ニ倣ヒ履歷書ヲ添ヘ當廳ヘ願出テ試験ヲ受クヘシ
- 第二條 官立并府縣立學校ニ於テ獸醫學卒業證書ヲ得タルモノニシテ開業セント欲スルトキハ更ニ試験ヲ要セスト雖トモ其修學履歷書ニ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ當廳ヘ願出ツヘシ
- 第三條 試驗科目ハ左ノ如シ
病獸治療法大意
藥劑大意
家畜取扱法大意
- 第四條 試驗合格ノモノハ乙號離形ノ開業免狀ヲ附與ス
- 第五條 開業免狀ヲ所持セサルモノハ本縣管下ニ於テ獸醫術ヲ施スコトヲ許サス
- 第六條 家畜傳染病ト診斷スルトキハ丙號書式ニ據リ其旨二日以内ニ當廳及警察署若クハ分署ヘ届出ツヘシ
- 第七條 水火盜難等ニ罹リ開業免狀ヲ失スルトキハ速ニ其事由ヲ具シ更ニ下渡ヲ當廳ヘ願出ツヘシ
- 第八條 改名又ハ他郡區町村ヘ轉住若クハ寄留開業セント欲スルモノハ免狀相添ヘ書換下渡ヲ當廳ヘ願出ツヘシ
- 第九條 他管下ヘ轉住若クハ寄留セント欲スルカ又ハ廢業死亡スルトキハ免狀相添ヘ其旨當廳ヘ届出ツヘシ
- 第十條 此規則ニ違犯シタルモノハ本縣管内ニ於テ營業停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 甲號 願書式
私儀今般栃木縣何郡何町村何番地ニ於テ獸醫開業仕度候ニ付御試験ノ上開業免狀御下附相成度依之履歷書相添ヘ此段奉願候也

年月日

栃木縣何郡何町村何番地 寄留

何府縣士族

何

年 誰 齡

縣 令 宛

戸長

何

誰

乙號

開業免狀離形(用紙中奉書四ツ切)

番號

何府縣士族

何郡何町村何番地 寄留

何

年 誰 齡

割印

右獸醫術開業差許候事

年 月 日

栃 木

縣

丙號

家畜傳染病御居

栃木縣何郡何町村

何番地何某所有(牝牛馬等)何毛何歳

一何病

發病地名 又何郡何町村何番地

發病 又ハ何々牧場

診斷 何月何日

右御届申上候也

何郡何町村何番地 寄留

獸醫 何

誰 印

農務局ヨリ農商務省へ同十七年五月十九日 縣令警察署又ハ分署宛
右檢考候處差支之廉無之様被存候ニ付追テ獸醫規則御制定相成候迄御開置ノ積ヲ以テ左案之通御指令
相成可然乎此段相伺候也

獸醫免許規則

十八年八月布達第十七號
ヲ以テ試驗規則ヲ定ム
十八年十二月十四日農務
局所定ヲ以テ開業免許狀
式ヲ定ム

布告 十八年八月二十二日太政大臣公署三條實美農商務卿伯爵西鄉從道副署
獸醫免許規則別冊ノ通制定シ明治十九年七月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

獸醫免許規則

- 第一條 獸醫ハ獸醫學術ノ試験ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免許狀ヲ得タル者トス
- 第二條 開業免許狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ
- 第三條 官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業
免許狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ試験ヲ要セスシテ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第四條 外國ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫ノ開業免許ヲ
得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免許狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ其證書ヲ
審査シ試験ヲ要セスシテ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試験ヲ經サル者ト雖
モ其履歷ニヨリ假開業免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第六條 開業免許狀ヲ得ル者ハ免許狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 開業免許狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ
- 第八條 開業免許狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニヨリ免許狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳
ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ

十八年九月八日農商務省
内訓ヲ以テ第五條內規ヲ
定ム

二十年二月二十三日司法
省訓令第十號ヲ以テ獸醫
犯罪處罰ノ節ハ農商務省
へ通知セシム

- 第九條 開業免許狀ノ書換ヲ願フ者ハ免許狀下付ノ節手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ
- 第十條 獸醫廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免許狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第十一條 獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ農商務卿其業ヲ停止若クハ禁止スルコト
アルヘシ
- 但其事開業免許狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ
- 第十二條 前條ニ據リ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免許狀ヲ取
上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免許狀ニ裏
書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ
- 第十三條 農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ特ニ其禁止ヲ解クコ
トアルヘシ
- 第十四條 官許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

農商務省同十八年二月二十日
獸醫ノ義是迄府縣適宜ノ處分ニ任セ自由營業差許來候處其徒タル曾テ病理ノ何タルヲ知ラス惟謂ハレ
ナキ家傳ノ慣習若クハ僅々ノ漢方等ニ據リテ施治スルモノニテ要スルニ家畜ノ衛生ヲ保護スルニ足
ヘキモノニ無之因テ漸次之ヲ改更セシメンカ爲メ去ル明治九年以來當省所轄農學校中ニ獸醫ノ專門科
ヲ置キ泰西ノ學術ニ基キ正則又ハ變則ノ二法ヲ以テ生徒ヲ養成シ來候處既ニ卒業シタル獸醫學士或ハ
獸醫生モ數多有之追々府縣ニモ採用セラレ隨テ治術上ニ成功ヲ顯ハスニ至リ加之是迄慣習ニヨリ營
致來候モノモ漸ク其迂拙ヲ悟リ到底泰西ノ學術ニ據ラサレハ真正ノ治術ヲ得ル能ハサルヲ略了解ス
ルノ場合ニ有之抑我邦ノ牛馬タル畜ニ其種類ノ下劣ナルノミナラス其頭數ニ至リテモ人口ニ比較スレ
ハ甚闕乏ヲ極メ農事軍用ノ得失利害ニ關スル實ニ淺少ニアラス然ルニ其改更繁殖ヲ圖ルニハ之カ衛生
ヲ保護スヘキ獸醫ノ學術ヲ振起シテ人醫ト同等ノ地位ニ進マシムルノ計畫ナカルヘカラス依テ獸醫開
業規則ヲ制定セラレ試験科目ニ因リ其及第者ニ限リ來ル明治十八年七月一日ヨリ當省ニ於テ開業免許
ヲ下付致度但僻陋ノ村落ニ在テ合格ノ獸醫ヲ得難キ場合ニ於テハ暫ク開業假免許狀ヲ下付シ以テ漸次ニ
完全セシメ度内務大藏兩卿協議ノ上別紙開業并試験規則布告布達案ヲ章シ此段相伺候條至急仰裁可
候也

第 號
獸醫開業免許規則左ノ通制定シ明治 年 月 日ヨリ施行ス
獸醫開業免許規則

第一條 獸醫ハ獸醫學術ノ試験ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免許ヲ得タル者トス
第二條 開業免許ヲ得タル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ
第三條 官立公立獸醫學校又ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免許ヲ得
第四條 外國ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫學術ノ開業免
許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免許ヲ得シタル者願出ツルトキハ農商務卿ハ其證
書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
第五條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試験ヲ經サル者ト雖
モ其履歷ニヨリ假開業免許ヲ授與スルコトアルヘシ
第六條 開業免許ヲ得タル者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ
第七條 開業免許ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シテ時々之ヲ公告スヘシ
第八條 開業免許ヲ得タル者ハ免狀下付ノ節手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ
第九條 獸醫免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ
第十條 獸醫免狀又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免許ヲ農商務省ニ返納スヘシ
第十一條 獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アルトキハ農商務卿其業ヲ停止シ若クハ禁止スルコ
トアルヘシ
但本文ノ事情開業免許ヲ得ルノ前ニ在ルモ本條ニ準スルモトス
第十二條 前條ニ據リ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免許ヲ取
上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免許ニ裏
書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ
第十三條 農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ特ニ其禁止ヲ解クコ
トアルヘシ
第十四條 官許ヲ得シテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
右奉勅旨布告候事
明治 年 月 日
太政官第 號
今般第 號ヲ以テ獸醫開業免許規則布告相成候ニ付獸醫開業試験規則別冊ノ通り相定メ明治 年 月
日ヨリ施行ス
獸醫開業試験規則
第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ其學術ノ試験ヲ受クヘシ
第二條 農商務卿ハ毎年二回獸醫開業ノ試験ヲ舉行スヘシ
但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六箇月前ニ告示スヘシ

太政大臣
農商務卿

太政官第 號

太政大臣
農商務卿

年 月

第三條 農商務卿ハ主事者及ヒ試験委員ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ
但事宜ニ依リ地方官ニ委任シ其試験ヲ執行セシムコトアルヘシ
第四條 農商務卿ハ獸醫學術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立公立獸醫學校又ハ農學校ニアリテ獸醫學ヲ
專修シタル者又ハ地方ニ於テ名望アル獸醫學者ヲ選ビ試験委員ヲ命スルコトアルヘシ
第五條 獸醫學術試験科目ハ左ノ如シ
第一 家畜解剖學
第二 生理學
第三 藥物學
第四 同 內科學
第五 同 外科學
第六 獸醫學術ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳
ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取經メ農商務省ニ進達スルモトス
第七條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘ
シ
但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ
第八條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ及第證書ヲ與フ
ヘシ
但及第證書ニハ主事者試験委員連署スヘシ
第九條 試験ニ落第シタル者ハ六個月ヲ經ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス
右布達候事
明治 年 月 日

太政大臣
農商務卿

參事院議案十八年六月五日

別紙農商務省同獸醫開業免許規則布告ノ件審査スルコト左ノ如シ
家畜ノ人世ニ須要ナル畜ニ農作運輸ノ便ナルノミナラズ其肉皮毛甲ニ至ルマテ給用甚ダ廣シ而シテ
兵戰ノ勝敗モ亦尤モ馬匹ノ饒乏健弱ヲ以テトスヘシ故ニ之ヲ蕃息改良ヲ計ルハ經濟ノ急務ト爲ス官
廳ニ此ニ見ルアリ銳意圖畫スル所アリト雖モ其數未タ多キヲ加ヘス而シテ近狀其供給頗ル闕乏ヲ告
ク蓋シ平時衛生其法ヲ得サルト罹病ニ方テ庸醫ノ手ニ斃ルハ者多キトニ因リナルヘシ本邦從來ノ馬
醫伯樂等ト稱スル者素家畜病理ノ何タルヲ知ラス僅ニ習慣ノ傳法ニ因リ鍼灸瀉血等ノ術ヲ施スニ過
キサレハナリ農商務省義ニ其所轄農學校中ニ專門獸醫科ヲ置キ純ラ洋法ニ資リ正變二則ヲ設ケ以テ
生徒ヲ養成ス爾來出ス所ノ學士醫生妙カラス府縣ノ聘ニ應シ治効ヲ顯ハス者往々之アリ舊法株守ス
ル者モ爲メニ稍自ラ其拙陋ヲ曉ルニ至ルト云然レトモ卒業獸醫ノ數之ヲ全國家畜ノ頭數ニ配スレハ
尙極メテ稀少ニシテ未タ普及ノ力衛生ノ方法ヲ施行スルニ足ラス若シ一旦惡疫ノ流傳スル前年ノ如
キニ會ヘハ座シテ群數ノ斃死ヲ視ルノ外他策ナキノミ今豫メ此等ノ不虞ニ備ヘ且畜種ノ改良蕃息ヲ

圖ル宜シク務メテ獸醫ノ學術ヲ誘進シ多ク其醫ヲ出スヘシ之ヲ爲サント欲スル先ツ寬ニ試驗科目ヲ設ケ傍ラ之ヲ誘拔シ格ニ入ル者ハ次ヲ逐テ其開業ヲ許スニアリ此ノ如キナレハ曩ノ馬醫伯樂等モ漸ク舊習ヲ捨テ眞正ノ醫術ヲ學フニ至リ衛生ノ方法始メテ普行スヘク不虞ノ備始メテ全カラシ農商務省ノ計畫ハ大ニ其當ヲ得タル者トス然ルニ同省伺ノ趣ハ明治十八年七月一日ヨリ施行スルモノトシ且一二文字ニ修正ヲ加ヘ候依テ布告布達案トモ裁可セラレ可然ト認定ス

右ニ由リ布告布達案左ノ通ニテ可然哉上申候也

元老院ニ達十八年六月十六日

右其院議定ニ被付候事

元老院上奏十八年七月十六日

去月十六日下付セラレシ獸醫開業免許規則制定ノ儀一昨十四日會議ニ於テ別冊ノ如ク修正ヲ加フヘキニ決ス仍テ其修正ノ箇所及ヒ院議ヲ朱書シ謹テ之ヲ上奏ス

(院議)

布告案中開業ノ二字ヲ削除セシハ例ヲ醫師免許規則ニ取ル左ノ別冊ニ改メ右奉勅旨云々ノ一句ヲ此ニ加ヘテ後ニ割リシハ醫師免許規則其他近來條數多ハ町村立ニ係ル者ヲモ包含ス醫師免許規則ニハ官立及府縣立云々ト言ヒ即チ町村立醫學學校ノ卒業生ハ其恩典ヲ蒙ル能ハサルニ獸醫ノ生徒ハ却テ之ヲ蒙ルムルノ不權衡ヲ生スルニ由ルノ字ヲ加ヘ又若ク修正セシハ官立云々ノ文字ヲ獸醫學學校トニ冠セシムルヲ明ニ止メ且次條ノ文例ニ効フナリ

第十一條 停止ノ下ノシテ字ヲ削除セシハ醫師免許規則ノ文例ニ依ル

附則ヲ加フル所以ノ者ハ主トシテ醫師免許規則ト權衡ヲ同ウスルニ在リ該規則ニハ第一條ニ但書ヲ加ヘテ從來開業ノ證ハ仍ホ其効アリトシ其營業ヲ公認セルニ本案ニ至テハ悉ク試驗ヲ受ケテ始メテ開業スルコトヲ得セシム之ヲ急激ノ變動ト謂ハサルヲ得本案ハ全ク人醫ノ規則ヲ模擬シナカラ獨リ其意ヲ取ラサルノ理ナシ總令第五條ニ一ノ活路アルモ該條ハ只獸醫ニ乏キ地ニノミ適用スヘキヲ以テ浸ニ之ヲ公認スルコトヲ得然ル時ハ營業者ニ於テ廢業ノ憂ナキニ非ス又營業者多クハ兼業ナルヲ以テ其ノ人ニ取ラハ格別ノ指支モ無カルヘキモ牛馬ヲ有スル者實際醫治ノ受クルニ於テ指支アルヘキ因テ醫師規則ニ倣ヒ第一條ニ但書ヲ加フヘキカ如クナレトモ獸醫ノ取締ハ今回ニ始マルヲ以テ所謂開業ノ證ト見做スヘキ者ナシ且但書ヲ加ヘテ本案ノ取除トシ其旨趣ヲ弱ムルハ又不可ナリトス故ニ之ヲ附則トナシテ始メテ完全ナル者トスヘシ

參事院議案十八年七月二十八日

別紙元老院上奏獸醫免許規則制定ノ件之ヲ熟查スルニ同院ニ於テ附則ヲ加ヘシ主旨ハ醫師免許規則ト權衡ヲ同クセンカ爲ニ其例ニ倣ヒ從來ノ開業者ヲ保護シ之ヲシテ俄ニ廢業ノ憂ナカラシムルト云ニ在リ案スルニ官ノ開業醫師ヲ律スルノ事稍明治六年ニ初マリ八年ニ至テハ文部省醫制ヲ定メ新ニ醫術開業者ノ試驗科目ヲ設ク爾來大低年毎ニ其制ヲ改メ終ニ昨十七年ニ至リ醫師免許規則ヲ制定セララル故ニ

其第一條ニ於テ但書ノ加ヘラレタルハ之ニ因リ曩ニ授與スル所ノ開業證書ヲシテ効アラシメ一ハ政府ノ信ヲ保チ一ハ新法ノ爲ニ活路ヲ失ハシムルノ憂ヲ防グニ在リシナリ

獸醫ハ則チ之ニ異ナリ從來馬醫伯樂等ト稱スル者其數大約五千九百五十八名其中地方廳ノ公許ヲ受ケタル者三千六百餘自由營業ノ者二千三百餘ニシテ皆共ニ曾テ一回ノ開業試驗ヲ受ケタル者ニ非サルナリ主務省查檢ニ據ルニ專業ノ者ハ極メ鮮ク其徒大低農作馬商若クハ蹄鐵ノ業ヲ兼テ學無術ニシテ甚シキハ一丁字ヲモ識ラサル者アリトイフ然ルモ附則ニ如ク從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス無術ニシテ業免狀ヲ與フルコトハ爲ストキハ本則トイフ然ルモ附則ニ如ク從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス無術ニシテヨリ何ニ由テ其開業者タルト否ル者トハ辨別シ又開業狀ヲ與フルトイフ然ルモ附則ニ如ク從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス無術ニシテハ本條ノ旨意ヲ以テ推測スルヲ得ヘシト雖モ法文ニ於テ頗ル缺實ト爲サハルヲ得ス若シ又營業者保護ノ點ヨリ論スレハ獸醫ノ術タル人醫ノ術ニ修ムルニ比シテ甚ハ易タリ而シテ目下ノ急トスル所ハ則チ施行ハ來明治十九年七月一日ニアルヲ以テ有志者少ク之ヲ勉メハ假開業免狀ヲ得ルニ於テ難キ所アルナシ尙且第五條ニ餘地ノ設アルカ故ニ當局者ノ用意ニ由リ一編ニ拘泥スルナクハ必ス多ク人業ヲ奪フノ虞ナカルヘシ又且開ク所ニ據レハ明治六年牛馬流行以來履歷ニ由リ假開業證書ヲ與フヘキ者尙四百餘名アリ當時ヨリ今ニ至リ各地方往々獸醫術ヲ講習實驗スル者アルヲ以テ其數必ス千餘ニ登ラントイフ此ノ如クナレハ直ニ本則ヲ施行セラルモ恐ラクハ獸醫ニ乏シキノ憂ナカルヘシ況ンヤ今日カ如キハ尤モ過慮ト爲ス何トナレハ牛馬多ク地ハ獸醫ヲ專業トスル者多ク隨テ不學無術ノ者極メテ稀ナルヲ以テ格ニ合フ者必ス多シ牛馬乏キノ地ハ專業者自ラ少シト雖モ本則第五條ヲ應用スルノ適處タレハナリ此等ノ理由ナルヲ以テ右附則ヲ削除シ其他修正ノ廉ハ不都合無ニ付來明治十九年七月一日ヨリ施行スル事ト定メ別紙改案ノ如ク布告セラレ布達案ハ更ニ修正ノ通發行相成可然哉上申候也

獸醫免許規則ノ疑ヲ質ス

廣島縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年九月五日

今般第二十八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付テハ從來本縣ニ於テ開業免狀ヲ授與シタル獸醫ハ規則第一條ニ據リ明治十九年六月三十日限り消滅スル儀ニ候哉將タ本縣開業免狀ヲ諦認シ更ニ御省ニ於テ免狀御下附可相成儀ニ候哉

農商務省指令 十八年九月十六日

伺之趣ハ前段伺之通

今般本縣ニ於テ駒場農學校獸醫科得業生ヲ準判任御用掛ニ採用候處右ハ第二十八號布告獸醫免許規則第三條ニ依リ卒業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得シコトヲ願出ルルハ直ニ該免狀ヲ授與セラレ、モノト存候得共元來獸醫術得業生タルノ資格ヲ以テ採用致候モノニ候ヘハ在官中ハ別ニ開業免狀ヲ願出ス候トモ他開業獸醫ト同ク隨意ニ人民ノ求メニ應シ牛馬并ニ諸畜治療爲致候テ差支無之候哉

農商務省指令 十八年十月二日

伺之趣官職之有無ヲ問ハス開業免狀ヲ有セサル者ハ人民ノ求メニ應シ治療不相成儀ト可心得事

廣島縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年十一月十八日

本年二十八號公布獸醫免許規則第五條ニ據リ假開業免狀御下付ノ節ハ同則第六條ノ手数料金徴收スルニ不及儀ト心得可然哉

農商務省指令 十八年十二月十六日

伺ノ趣獸醫免許規則第六條ニ據リ手数料金徴收スヘキ儀ト可心得事

布達 十八年八月二十二日太政大臣公卿三條實美農商務卿伯魯西卿從道副署

今般第二十八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付獸醫開業試驗規則左ノ通相定メ明治十九年三月一日ヨリ施行ス

獸醫開業試驗規則

第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 農商務卿ハ毎年二回獸醫開業ノ試驗ヲ舉行スヘシ

但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六箇月前ニ告示スヘシ

第三條 農商務卿ハ主事者及ヒ試驗委員ヲ派遣シ試驗一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

但時宜ニ依リ地方官ニ委任シ其試驗ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條 農商務卿ハ獸醫學術開業試驗ヲ舉行スル毎ニ官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニアリテ

獸醫學ヲ專修シタル者又ハ地方ニ於テ名望アル獸醫學者等ヲ選ヒ試驗委員ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 獸醫學術試驗科目ハ左ノ如シ

第一 家畜解剖學

第二 同 生理學

第三 同 藥物學

第四 同 內科學

第五 同 外科學

第六條 獸醫學術ノ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ農商務省ニ進達スルモノトス

第七條 試驗問題ハ試驗主事者試驗委員協議ノ上之ヲ選定シ試驗場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第八條 試驗主事者ハ試驗終ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ主事者試驗委員連署スヘシ

第九條 試驗ニ落第シタル者ハ六箇月ヲ經ルニ非レハ再試驗ヲ請フコトヲ得ス

右布達候事

獸醫開業試驗規則ノ疑

栃木縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年三月二十四日
甲地ニ於テ獸醫開業試驗ノ許可ヲ得タルモノ病ノタメニ缺席シ乙地ニテ試驗ヲ願フルハ許可セラルヘキヤ

農商務省指令 十九年三月二十五日

伺ノ趣試驗規則第六條ノ外許可セス

埼玉縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年六月二十六日

獸醫開業試驗規則第九條ニ試験ニ落第タル者ハ六箇月ヲ經ルニアラサレハ再ヒ試験ヲ請フコトヲ得
ストアリ右ハ第一期試験ニ落第セシ日より起算シ出願期月即チ當六月迄ハ未タ六箇月ヲ經過セサル儀
ニ付固ヨリ試験ヲ請フコトヲ得サル儀ニ候哉將タ假令出願期月ハ未タ六箇月ニ滿タサルモ試験期月ニ
至リ六箇月以上ニ涉ルトキハ出願不苦候哉

農商務省指令 十九年六月二十九日

伺ノ趣前段見解ノ通

茨城縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年十二月二十二日

昨十八年第二十八號公布獸醫免許規則中疑義ノ廉左ニ相伺候
一本規則第六條ニ開業免狀ヲ得ル者トアルハ假開業免狀ヲ得ル者ヲモ含有セル儀カ
一前項果シテ然ルトキ假開業免狀ヲ得タル者ニシテ獸醫開業試驗ニ及第シ開業免狀ヲ得ル者アルトキ
ハ又第六條ニ據リ免狀手数料ヲ徴收シ可然哉
一本規則第七條ヨリ第十三條迄ノ各條ハ又假開業免狀ヲ得タル者ニ通シテ施行スル義カ若シ否ストス
ルトキハ其取扱如何可心得哉

農商務省指令 二十年一月十二日

伺之趣左ノ通心得ヘシ

第一項及二項ハ見解ノ通

第三項ハ前段見解ノ通

獸醫開業試驗受驗人心
得

農商務省告示 十八年八月三十一日
第十九號

今般太政官第十七號ヲ以テ獸醫開業試驗規則布達相成候ニ付受驗人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受驗人心得

第一條 獸醫開業試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得
ヘシ

第二條 獸醫開業試驗ヲ受ケント欲スル者ハ本年第十七號布達獸醫開業試驗規則第六條ニ準據シ其願
書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ著シ宿所氏名ヲ
其地方廳ヘ届出ヘシ

第四條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ
願書式

獸醫開業試験願

住所(寄留ナレハ本籍
ヲ併記スヘシ)

族籍

氏

名

年月生

私儀何年何月何地ニ於テ獸醫開業試験相受度別紙書類相添ヘ此段奉願候也

年月日

右

氏

名

印

戸長

氏

名

印

農商務卿宛

獸醫開業試験舉行地方
及期日

以下是ニ類スル告示ハ總
テ略ス

農商務省告示 十八年八月三十一日
第十八號

來明治十九年第一回獸醫開業試験舉行ノ地方及其期日左ノ通相定候條志願ノ者ハ本年第十七號布達ニ
準據シ其願書ニ試験ヲ受ケントスル望ノ場所ヲ記載シ本年十二月中居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ此旨告
示候事

東京府下東京

静岡縣下静岡

三月上旬

山口縣下山口

鹿児島縣下鹿児島

三月中旬	愛知縣下名古屋
	廣島縣下廣島
	長崎縣下長崎
三月下旬	熊本縣下熊本
	岡山縣下岡山
四月上旬	大阪府下大阪
	福岡縣下福岡
	高知縣下高知
四月中旬	鳥取縣下鳥取
	愛媛縣下松山
	大分縣下大分
四月下旬	島根縣下松江
	福島縣下福島
五月上旬	函館縣下函館
	沖繩縣下那霸
	長野縣下長野
五月中旬	山形縣下山形
	札幌縣下札幌
	新潟縣下新潟
五月下旬	宮城縣下仙臺
	根室縣下根室

六月上旬	富山縣下富山
	岩手縣下盛岡
六月中旬	福井縣下福井
	秋田縣下久保田
六月下旬	青森縣下青森

獸醫免許規則第五條內規

十九年十二月二十五日農商務省令以テ廢止ス
十九年五月十七日農商務省令以テ第六項ヲ追加ス

農商務省令達十八年九月八日

今般獸醫免許規則發布相成候ニ付該規則第五條ニヨリ假開業免狀ヲ請求スルトキハ別紙內規ニ據リ申出ヘシ此旨及內達候也

獸醫免許規則第五條內規

- 第一項 獸醫ニ乏シキ地トハ開業獸醫アル地ニ隔絶シ又ハ陸地遠隔ノ島嶼ニ限ルモノトス
- 第二項 假開業免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ開業地ノ郡區町村名ヲ記シ履歷書ヲ添ヘ郡區長ヲ經テ地方廳ヘ差出サシムヘシ
- 但出願ニ係ル細則ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 第三項 假開業免狀ヲ願出ル者アルトキ府知事縣令ハ實際獸醫缺乏ノ地ニ限リ區域ヲ定メ其廣狹家畜ノ頭數及他ノ開業獸醫アル地ニ至ル里程詳細取調本人ノ履歷書ヲ添ヘ其時時伺出ヘシ
- 第四項 假開業免狀下付ノ節府知事縣令ハ其免許區域ヲ本人ヘ令達スヘシ
- 第五項 假開業獸醫ハ免許區域外ヘ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得ス
- 但區域外ノ病畜ト雖モ牽來リテ治療ヲ請フモノアルトキハ此限ニ非ス

牛馬ノ蹄剪刺烙營業ニ就キ疑フ質ス

福島縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年十月九日
從來ノ馬醫ナルモノ數村ノ農馬ヲ病馬ニシテ集メ蹄剪刺烙等ノ術ヲ施シ來候處本年第二十八號公布實施後

ハ右蹄剪刺烙共ニ獸醫ニアラサレハ施術不相成哉

農商務省指令 十八年十月二十三日

伺之通

岩手縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年十一月六日
本年十月二十六日第六百九十七號官報ニ福島縣ヨリ從來ノ馬醫ニテ農馬ヲ集メ蹄剪刺烙等ヲ施來候處
本年二十八號公布實施後ハ蹄剪刺烙共ニ獸醫ニアラサレハ不相成哉ノ伺ニ對シ伺之通トノ御指令ヲ揭
載有之右刺烙ハ素ヨリ獸醫ノ職業ニ屬スレハ蹄剪ハ猿尾同様半ハ家畜ノ修飾ナレハ獸醫ニアラサルモ
施術不苦哉ニ被考候得共果シテ獸醫ニ限ルモノトセハ本縣ノ如キ家畜多數ニレテ地理不便或ハ獸醫ア
ルモ蹄剪未熟ナル等ヨリ修飾ヲ怠リ爲メニ患者ヲ釀生スル哉ノ恐モ有之ニ付右様ノ場合ニ於テハ本縣
限リ特ニ蹄剪業ヲ許可スルモ不苦候哉

農商務省指令 十八年十一月十九日

伺之趣免許獸醫ニ非サレハ營業不相成儀ト可心得事

德島縣ヨリ農商務省ヘ伺二十年四月十三日

獸醫ニアラサル者ニシテ蹄剪刺烙トモ施術營業相成ヲサル旨義ニ福島縣外一縣ヘ御指令ノ次第モ有之
候處從來ノ慣行ニ據リ牛馬ニ灸治ヲ施ス如キモ猶獸醫ニ限ルヘキ哉果シテ然ラハ茲ニ營業トナスニア
ラス無賃ニシテ自己ノ技工ニ任セ親屬若クハ他ノ依頼ニ應シ一時牛馬ニ灸治ヲ施ス者アルトキハ明治
十八年公布第二十八號第十四條ニ該當スル義ニ候哉將タ右所爲ノ如キハ營業トナスニアラサルヲ以テ
取締上後來不問ニ付シ可然哉

農商務省指令 二十年四月二十三日

伺ノ趣免許獸醫ニアラサレハ施術スルヲ得ス

農商務省農務局所定 十八年十二月十六日

獸醫開業免狀并獸醫試驗及第證書式

獸醫開業免狀并獸醫試
驗及第證書式

獸醫開業免狀

明治何年何月何日 縣府廳 下ニ於テ獸醫開業

試驗ニ及第ス因テ明治十八年第二拾
八號布告獸醫免許規則ニ據リ此免狀

ヲ授與ス

明治何年何月何日

農商務卿 位勳爵氏名

印

農商務省農務局長位勳氏名

印

此免狀ヲ勘査シ第何號ヲ以テ獸醫籍ニ登録ス

獸醫開業免狀

族 氏 籍 名

明治何年何月何學校ニ於テ受領シタ

ル獸醫學全科卒業ノ證書ヲ諒認ス因

テ明治十八年二拾八號布告獸醫免許

規則ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治何年何月何日

農商務卿 位 勳 爵 氏 名

印

此免狀ヲ勘査シ第何號ヲ以テ獸醫籍ニ登錄ス

農商務省農務局長位勳氏名

印

獸醫開業免狀

族 氏 籍 名

西曆何年何月何國何學校ニ於テ受領

シタル獸醫學全科卒業ノ證書ヲ諒認

ス因テ明治十八年二拾八號布告獸醫

免許規則ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治何年何月何日

農商務卿 位 勳 爵 氏 名

印

此免狀ヲ勘査シ第何號ヲ以テ獸醫籍ニ登錄ス

農商務省農務局長位勳氏名

印

獸醫開業免狀

西曆何年何月何國ニ於テ得タル獸醫
開業證書ヲ諦認ス因テ明治十八年二
拾八號布告獸醫免許規則ニ據リ此免
狀ヲ授與ス

明治何年何月何日

農商務卿 位 勳 爵 氏 名

印

此免狀ヲ勘査シ第何號ヲ以テ獸醫籍ニ登錄ス

農商務省農務局長位勳氏名

印

獸醫假開業免狀

有効期限

明治何年何月何日迄

族 氏 籍

營業區域

何郡ノ内何村、

又ハ
何郡 一圓

明治何年何月何

廳

知 長

事 官

歷ニ據リ此假開業免狀ヲ授與ス

明治何年何月何日

農商務卿 位 勳 爵 氏 名

印

此免狀ヲ勘査シ第何號ヲ以テ獸醫籍ニ登錄ス

農商務省農務局長位勳氏名

印

第何號

獸醫開業試驗及第之證

氏
族
籍
名

右ハ明治何年何月何廳府縣下何地ニ於

テ施行セシ獸醫開業試驗ニ及第ス因テ

此證ヲ授與ス

明治何年何月何日

試驗主事

氏

名

印

試驗委員學士

氏

名

印

獸醫開業試驗取扱手續

獸醫開業試驗取扱手續 十九年一月二十八日

第一條 試驗主事者ハ受験人ノ員數及氏名ヲ調査シ其番號_{番號ハ本省ニ於テ定ル所ノ順序ニ據ル}ニ從ヒ席次ヲ定ムヘシ
但試驗場ニ於テハ受験人ノ名ヲ用ヒス其番號ヲ喚フヘシ
第二條 試驗主事者ハ試驗委員ト共ニ受験人ノ悉ク著席スルヲ俟テ其問題ヲ示スヘシ
第三條 試驗問題ノ數ヲ定ムル左ノ如シ

- 第一 解剖學 三問
- 第二 生理學 三問
- 第三 藥物學 三問
- 第四 內科學 三問
- 第五 外科學 三問

但試驗時間ハ一學科三時間ヲ限トス

第四條 試驗委員ハ試驗中問題ノ質問ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ説明スヘシ

第五條 試驗委員ハ毎日試驗科目中一科以上ノ答案ヲ調査シ成績點數ヲ附シテ之ヲ試驗主事者ニ出ス
ヘシ主事者ハ第六條ノ及第格例ニ照シテ其合格不合格ヲ判定シ之ヲ受験人成績簿ニ記入スヘシ
第六條 及第格例ハ左ノ如シ
各科點數三十點以上ニシテ其合點數二百五十點以上ヲ得タルモノトス
但一科問百點ヲ以テ滿點トス

第七條 試驗主事者ハ試驗了ルノ後農務局長ヲ經テ受験人成績簿ヲ農商務大臣ニ進達スヘシ
試驗場內受験人心得

一 試驗時間ハ豫メ試驗場ニ掲出スヘシ
一 受験人ハ毎日試驗時限三十分前ニ到著シ溜所ニ控居リ掛員ノ指揮ニ從ヒテ各自番號ヲ逐ヒ順次著席

スヘシ

一試験場ニテハ受験人ノ氏名ヲ用ヒス其番號ヲ喚フヘシ

一受験人ハ筆墨硯ヲ携帯スヘシ

但鉛筆ハ用フルコトヲ許サス

一問題答記ノ時間ハ一學科三時間ヲ限トス

一問題ノ疑義ハ試験委員ニ質問スヘシ

一受験人ハ答記中本席ヲ離ルルコトヲ得ス

但止ムヲ得サル場合ニ於テハ主事ノ許可ヲ請フヘシ

一答記書ハ眞片假名ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ

一答記書ハ配付シタル封筒ニ入レ其表面ニ自己ノ番號學科名并ニ第何問ヲ記載シテ机上ニ置クヘシ

一書籍其他書類ハ總テ試験席ニ携帯スルヲ許サス

但筆墨硯ヲ除クノ外携帯品ハ著席前携帯品預所ヘ預ケ置クヘシ

一試験及第ノ者ハ召喚ノ上及第證書ヲ授與スヘシ

但及第ノ氏名ハ試験場ニ掲出ス

函館縣告示 第十九年 一月二十六日

函館縣獸醫假開業免狀
請求願書式

明治十八年八月第二十八號布告獸醫免許規則第五條ニヨリ當管内ニ於テ假開業免狀ヲ請求セントスルモ
ノハ左ノ書式ニ準シ本年三月十五日限り願出ヘシ此旨告示候事

書式 (用紙美濃紙)

獸醫假開業免狀御下渡願

私 儀

函館縣下何國何郡何町ニ於テ獸醫開業志願ニ候條假開業免狀御下渡被下度別紙履歷書相添此段奉願

上候也

年月日

農商務大臣子爵谷干城殿

前書願出ニ付奥印ノ上進達候也

年月日

書式 (用紙美濃紙)

履歷書

何府何國何郡何町何番地(寄留ナレハ本籍)
族籍

何ノ誰印

戸長何某印

何府何國何郡何町何番地(寄留ナレハ本籍)
族籍

何ノ誰

生年月

一何年何月ヨリ何年何月マテ何誰ニ就キ或ハ何地何學校ニ於テ修業

一何何

右之通候也

年月日

何ノ誰印

農商務省內訓 十九年 五月十七日

獸醫免許規則第五條內
規ヘ一項ヲ追加ス

十九年十二月二十五日農
商務省內訓ニ依テ消滅ス

獸醫免許規則第五條ノ內規客年九月八日付ヲ以テ及内達置候處仍ホ左ノ一項ヲ追加候條及内訓候也

獸醫免許規則第五條ノ內規